



天皇・皇后両陛下が戦没者へ黙祷を捧げられる=8月15日、日本武道館で

水尾辻会長が代表参拝

みんなで参拝国会議員の会

超党派の国会議員でつくる「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」(会長・尾辻秀久)は、終戦から七十五年の八月十五日、新型コロナウイルス感染拡大に鑑み、四月の春季例大祭に続き、集団参拝を見送り、尾辻会長と水落敏栄事務局長(本会会長)が代表して靖国神社に昇殿参拝した。なお、今年は五輪僚が参拝した。

七十五回目の終戦記念日を迎えた八月十五日、靖国神社には猛暑の中多くの参拝者の姿があった。新型コロナウイルス感染症の影響により、マスクを着用し、神前での参拝のために間隔を空け整列しての参拝等、例年とは異なる様子が見られた。午前十時三十分、「み

長は

「いつもの通り静か



「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」を代表して昇殿参拝に向かう尾辻会長と水落事務局長=8月15日、靖国神社で

今後の遺族会を考える特別委員会報告書(第1回掲載)

日本遺族会は昭和22年1月の発足以来、一貫して英靈の顕彰、戦没者遺族の待遇改善等に努力を重ね、72年の歳月が流れました。今では、構成団体から遺族会運動に携わる者も少なくなり、遺族会運動の継承が懸念されています。

東日本大震災から9年が経ち、事故にあわれた方々に対する補償問題については、一つの決着を見ることであります。しかし、事故にあわされた方々を含め、関係者の方々に対する慰謝金請求は、遺族会の使命である。

新生日本遺族会として新たに歩みだした遺族会ではあるが、会員の高齢化は如何ともがなく、高齢ある遺族会の存在意義が薄かれています。現状にある今日、後継者たる青年部組織の強化は急務の急である。歴戦世代が会員の8割を超えて、戦争の記憶も風化しきつてあるなかで、英靈顕彰、死没者の慰謝金を訴え、かつ、後世に伝えなどには多くの困難感が予想される。しかし、こういう時期だからこそ、本特別委員会は六所宮から本会の存続意義を再確認し、活動目標や目的を明確に示すことが求められています。こうした現状に鑑み、今抱える遺族会と将来的な本会創立80周年、公益目的活動計画終了までを一日の目安において想起される問題を明らかに。これからは、この遺族会の存続を想定して、時代の流れに伴った遺族会運営をここに取組むことのためにも、今和7年の賛助金申請を何よりも獲得する覚悟をもって臨む必要がある。

昭和から平成、そして令和の時代にとっても、あの戦争の大惨事と和平の大慈さを知る我々だからこそ、先の大戦での教訓を生かし、現在の社会があることの意義を語り継いでいく資質があることも忘れてはならない。

終わりに、令和9年以後の問題については、また検討していくなどとしたことをお詫びする。

第一章 英靈顕彰

1. 靖国神社問題

(1) 内閣総理大臣の靖国神社参拝の定着

国家の行為である戦争において犠牲となつた戦没者等の慰靈追悼と和平を顧んで國民を代表する内閣総理大臣が行うのは当然のことであり、国家存立の基本である。

また、多くの国民が、靖国神社を我が国で唯一の戦没者追悼施設であると考えていることは、政府自ら認めており、戦没者の追悼にともに共通の認識である。

加えて、戦没者自身が生前そのように認識していたこと。更に国は、戦没されたなら靖国神社に祀られることを約束していること。これらを踏まえ合わせると、宗廟の御座を超えて、内閣総理大臣は靖国神社に参拝すべきである。このことが国の安寧と祭典を重んじて穏やかにされたものである。

しかし、現状では防衛省への配慮から参拝定着はまだならず、閣僚の参拝についても定期的に行なっている。靖国神社参拝時の総理の決断に左右されており、こうした不安な状況を改善するため、遺族会はじめとする多くの国民が参拝することを強く要望している。されど、現地で参拝されても動かない靖国神社参拝への環境整備で済むべきではない。さきには、こうした不安な状況を改善するため、政府が現在進めている法改正等により制度化を図り、将来における要望を無くす必要がある。

なお、将来的な政治権力が誕生しようとも、戦没者遺族はこれを要求することを忘れてはならない。

(2) いわゆる戦犯問題

近隣諸国の一派から、いわゆるA級戦犯を祀る靖国神社に、内閣総理大臣が参拝することは極めて批判がある。

しかし、本会は依然として靖国神社の正当性を争うとともに、そこで裁決されたいわゆるA級戦犯の存在を否定する。

かつて、戦後における戦犯の放逐を望む世論の高まりは、赦免等により彼らを放逐し、恩給等の待遇を適用することにより国内的には戦犯の名前回復は果たされたものと考える。

よって、我が国には戦争犯罪犯なるものは存在しないのである。

① 検索結果 戦犯裁判の不当性

中央参加団体代表など約三十人が参列した。

●郵便番号

001-1300-2-6940029

●みほほ預金

00600930

日本遺族への賛助金のお願い

日本遺族会では、戦没者の英靈顕彰や遺族援護、遺骨収集運送等各種事業の活動のために賛助金を募っております。

本会の活動の趣旨にご理解を賜り何卒ご賛同いただきますようお願い申しあげます。

超党派の国会議員でつくる「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」(会長・尾辻秀久)は、終戦から七十五年の八月十五日、新型コロナウイルス感染拡大に鑑み、四月の春季例大祭に続き、集団参拝を見送り、尾辻会長と水落敏栄事務局長(本会会長)が代表して靖国神社に昇殿参拝した。なお、今年は五輪僚が参拝した。

超党派の国会議員でつくる「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」(会長・尾辻秀久)は、終戦から七十五年の八月十五日、新型コロナウイルス

JARRWC

硫黄島で11柱を収集

日本戦没者遺骨収集推進協会（JARRWC）主催による硫黄島戦没者遺骨収集派遣団（第一回派遣）が七月二十九日から八月十二日までの十五日間派遣され、本会からは二人が参加協力し、硫黄島の壕等で収集作業に従事し、十一柱を収容した。今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴うPCR検査を受け陰性反応者の派遣となつた。

派遣者縮小で作業に従事

日本戦没者遺骨収集推進協会（JARRWC）主催による硫黄島戦没者遺骨収集派遣団（第一回派遣）が七月二十九日から八月十二日までの十五日間派遣され、本会からは二人が参加協力し、硫黄島の壕等で収集作業に従事し、十一柱を収容した。今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴うPCR検査を受け陰性反応者の派遣となつた。

月に入り増加に転じ、過

去最多を更新する状況

が取り纏めた「戦没者遺

骨収集事業及び事業委託

について」に関して、本紙

8月号で、再発防止策と

しについて記述する。

現地の鑑定人に加え日本

側の遺骨鑑定人が形質鑑

定、モンゴロイド（ア

ジア系）であるか否かを

判定し、現地住民や交戦

国兵士等と判定した遺

骨は持ち帰らない。

骨検体のみを未焼骨で送

還する

遺骨鑑定人による遺骨

の形質鑑定に加え、事前

調査した埋葬地資料又は

海外公文書館資料や現地

の兵士の証言等の手掛り情

報に加え、埋葬状況、遺

骨等の状況も踏まえ、遣

骨の形質鑑定及び遺骨等

の埋葬状況等について必

要とされる情報等を正確に残す。

遺骨の形質等の鑑定

は、所属集団判定のため

は、派遣団は、今年一月派

遣の継続となる北東部、

漂流木海岸、外周道路外

の傍では、地底レー

ダー探査で反応があつた

地表面を掘削しながら作業

を進め、九柱を収集した。

さらに、航空基地庁舎

の周辺では、地底レー

ダー探査で反応があつた

地表面を掘り下げ、メタ

ンガスが発生する中送風

管で空気を送りながら作業

を行い、地表面から五

メートル下の地中で二柱

を収集した。

収集された十一柱は、

務所棟に仮安置された。

た。これにより本会から

は一人となつた。

派遣団は、今年一月派

遣の継続となる北東部、

漂流木海岸、外周道路外

の周辺では、地底レー

ダー探査で反応があつた

地表面を掘削しながら作業

を進め、九柱を収集した。

さらに、航空基地庁舎

の周辺では、地底レー

ダー探査で反応があつた

地表面を掘り下げ、メタ

ンガスが発生する中送風

管で空気を送りながら作業

を行い、地表面から五

メートル下の地中で二柱

を収集した。

収集された十一柱は、

務所棟に仮安置された。

た。これにより本会から

は一人となつた。

派遣団は、今年一月派

遣の継続となる北東部、

漂流木海岸、外周道路外

の周辺では、地底レー

ダー探査で反応があつた

地表面を掘削しながら作業

を進め、九柱を収集した。

さらに、航空基地庁舎

の周辺では、地底レー

ダー探査で反応があつた

地表面を掘り下げ、メタ

ンガスが発生する中送風

管で空気を送りながら作業

を行い、地表面から五

メートル下の地中で二柱

を収集した。

収集された十一柱は、

務所棟に仮安置された。

た。これにより本会から

は一人となつた。

派遣団は、今年一月派

遣の継続となる北東部、

漂流木海岸、外周道路外

の周辺では、地底レー

ダー探査で反応があつた

地表面を掘削しながら作業

を進め、九柱を収集した。

さらに、航空基地庁舎

の周辺では、地底レー

ダー探査で反応があつた

地表面を掘り下げ、メタ

ンガスが発生する中送風

管で空気を送りながら作業

を行い、地表面から五

メートル下の地中で二柱

を収集した。

収集された十一柱は、

務所棟に仮安置された。

た。これにより本会から

は一人となつた。

派遣団は、今年一月派

遣の継続となる北東部、

漂流木海岸、外周道路外

の周辺では、地底レー

ダー探査で反応があつた

地表面を掘削しながら作業

を進め、九柱を収集した。

さらに、航空基地庁舎

の周辺では、地底レー

ダー探査で反応があつた

地表面を掘り下げ、メタ

ンガスが発生する中送風

管で空気を送りながら作業

を行い、地表面から五

メートル下の地中で二柱

を収集した。

収集された十一柱は、

務所棟に仮安置された。

た。これにより本会から

は一人となつた。

派遣団は、今年一月派

遣の継続となる北東部、

漂流木海岸、外周道路外

の周辺では、地底レー

ダー探査で反応があつた

地表面を掘削しながら作業

を進め、九柱を収集した。

さらに、航空基地庁舎

の周辺では、地底レー

ダー探査で反応があつた

地表面を掘り下げ、メタ

ンガスが発生する中送風

管で空気を送りながら作業

を行い、地表面から五

メートル下の地中で二柱

を収集した。

収集された十一柱は、

務所棟に仮安置された。

た。これにより本会から

は一人となつた。

派遣団は、今年一月派

遣の継続となる北東部、

漂流木海岸、外周道路外

の周辺では、地底レー

ダー探査で反応があつた

地表面を掘削しながら作業

を進め、九柱を収集した。

さらに、航空基地庁舎

の周辺では、地底レー

ダー探査で反応があつた

地表面を掘り下げ、メタ

ンガスが発生する中送風

管で空気を送りながら作業

を行い、地表面から五

メートル下の地中で二柱

を収集した。

収集された十一柱は、

務所棟に仮安置された。

た。これにより本会から

は一人となつた。

派遣団は、今年一月派

遣の継続となる北東部、

漂流木海岸、外周道路外

の周辺では、地底レー

ダー探査で反応があつた

地表面を掘削しながら作業

を進め、九柱を収集した。

さらに、航空基地庁舎

の周辺では、地底レー

ダー探査で反応があつた

地表面を掘り下げ、メタ

ンガスが発生する中送風

管で空気を送りながら作業

を行い、地表面から五

メートル下の地中で二柱

を収集した。

収集された十一柱は、

務所棟に仮安置された。

た。これにより本会から

は一人となつた。

派遣団は、今年一月派

遣の継続となる北東部、

漂流木海岸、外周道路外

の周辺では、地底レー

ダー探査で反応があつた

地表面を掘削しながら作業

を進め、九柱を収集した。

さらに、航空基地庁舎

の周辺では、地底レー

ダー探査で反応があつた

地表面を掘り下げ、メタ

ンガスが発生する中送風

管で空気を送りながら作業

を行い、地表面から五

メートル下の地中で二柱

を収集した。

収集された十一柱は、

務所棟に仮安置された。

た。これにより本会から

は一人となつた。

派遣団は、今年一月派

遣の継続となる北東部、

漂流木海岸、外周道路外

の周辺では、地底レー

ダー探査で反応があつた

地表面を掘削しながら作業

を進め、九柱を収集した。

さらに、航空基地庁舎

の周辺では、地底レー

ダー探査で反応があつた

地表面を掘り下げ、メタ

ンガスが発生する中送風

管で空気を送りながら作業

を行い、地表面から五

メートル下の地中で二柱

を収集した。

収集された十一柱は、

務所棟に仮安置された。

た。これにより本会から

は一人となつた。

派遣団は、今年一月派

遣の継続となる北東部、

漂流木海岸、外周道路外

の周辺では、地底レー

ダー探査で反応があつた

地表面を掘削しながら作業

を進め、九柱を収集した。

さらに、航空基地庁舎

の周辺では、地底レー

